

JAPAN AIRPORT TERMINAL 70th

挑戦のその先にある
誰も見たことのない、空の玄関へ。



HANEDA CROSSING

羽田空港は、可能性の交差点です。

グループ企業や社員の様々な個性をクロスさせることで、違いを力に変え、日本空港ビルグループにしかできない未来を創造する。

そんな一体感のある多様性をオリジナル造形の「H」に凝縮しました。

Hを構成する直線は空港を訪れる人々へのひたむきでまっすぐなまなざし、曲線は社会や地球環境へのやわらかで大きなまなざしの象徴です。

未来への滑走と飛翔を感じさせる躍動的な造形で、これからの日本空港ビルグループのビジョンを世界に向けて発信します。

CONTENTS

目指す未来

- 05 日本空港ビルグループの理念体系／長期ビジョン
- 07 CEO message
- 11 COO message

価値創造ストーリー

- 15 価値創造のあゆみ
- 17 価値創造プロセス
- 19 価値創造を実現する資本

中期経営計画

- 21 外部環境認識／2030年の目指す姿
- 23 現中期経営計画の位置づけと戦略の全体像
- 25 収益基盤戦略
- 27 経営基盤戦略
- 29 サステナビリティ戦略
- 31 各事業が目指す姿と進捗

特集

- 33 ターミナル機能強化
- 35 terminal.0 HANEDA
- 37 空港ならではのリテール事業の実現

マテリアリティへの取り組み

- 39 マテリアリティとKPI
- 41 気候変動への対策
- 45 限りある資源の有効活用
- 47 安心・快適で先進的な空港づくり
- 53 地域・地方への貢献
- 55 人材育成
- 59 ダイバーシティ&インクルージョンの推進及び人権の尊重
- 61 公正な事業活動の推進／リスク管理の強化

コーポレートガバナンス

- 63 社外取締役メッセージ
- 65 コーポレートガバナンス体制／体制図／コーポレートガバナンスに関する会議体／スキルマトリックス
- 67 取締役会の実効性評価／役員報酬制度設計
- 69 政策保有株式／大規模買付行為への対応方針／株主・投資家とのコミュニケーション
- 71 取締役一覧

データ

- 73 財務／非財務ハイライト
- 75 財務10カ年データ
- 77 会社概要／株式情報／グループ会社一覧

対象期間

2023年3月期(2022年4月～2023年3月)
※ 実績データに関しては2022年度を対象としましたが、一部、2022年3月以前および2023年4月以降の活動内容を含みます。

対象組織

日本空港ビルグループ
※ 関連会社は下記URLに記載しています。
https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/corporate_profile/group.html

本レポートに関するお問い合わせ

日本空港ビルディング株式会社 サステナビリティ推進室
〒144-0041 東京都大田区羽田空港3-3-2
第1旅客ターミナルビル
E-mail:sustainability@jat-co.com
Tel:03-5757-8064

見直しに関する注意事項

本報告書には、将来に関する見直しおよび計画に基づいた予測が含まれています。実際の成果や業績などは異なる可能性があることをご承知おきください。

編集方針

「統合報告書2023」では、日本空港ビルディング株式会社が事業を通じて、どのように社会課題を解決し、持続的な企業価値を向上していくのかをお伝えするために制作・発行いたしました。
制作にあたっては、IFRS財団が推奨する「国際統合報告フレームワーク」および経済産業省が策定した「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」を参考に編集しています。



情報開示体系

財務情報

日本空港ビルディング株式会社
WEBサイト
株主・投資家情報
<https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/ir/>

IR資料/株式情報 など

サステナビリティ

日本空港ビルディング株式会社
WEBサイト
サステナビリティ
<https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/sustainability/>
環境/社会/ガバナンス

統合報告書

At a Glance

事業概要

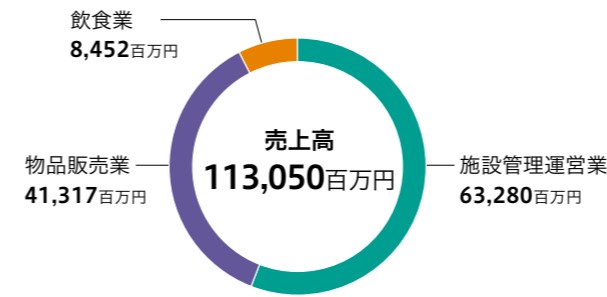
羽田空港旅客ターミナルの建設、管理・運営を担う企業として

私たち日本空港ビルグループは、羽田空港において空港法に基づく空港機能施設事業者としての指定を受けており、第1・第2・第3ターミナル及びP1・P4・P5駐車場を管理・運営する企業として、事務室等の賃貸のほか、空港内店舗における物品販売(食料品を含む)、飲食店舗の運営、機内食の製造・販売や旅行サービスの提供等を行っております。また、成田空港等の拠点空港においても物品販売や機内食の製造・販売等の飲食サービスの提供を行うほか、空港外に保有する社有地を有効活用した不動産賃貸等を行っており、長年培ってきた経験を活かして空港内外における新たな事業展開についても取り組んでいます。

羽田空港における日本空港ビルグループの位置づけ

	設置・管理
国(国土交通大臣)	空港施設(基本施設) ・滑走路/誘導路/エプロン ・管制施設
日本空港ビルグループ	旅客ターミナル

事業別売上構成比



羽田空港旅客数 **5,987万人**
国内線: 5,306万人 国際線: 680万人

※ 2022年度実績

世界最高水準である「5スターエアポート」など、さまざまな評価を受賞

羽田空港旅客ターミナルは、英国のSKYTRAX(スカイトラックス)社が実施する「World Airport Star Rating」において、9年連続で世界最高水準である「5スターエアポート」を獲得しています。また、国際空港評価においても、空港の清潔などを評価する部門で8年連続世界第1位、国内線空港総合評価部門で11年連続世界第1位、PRM(Persons with Reduced Mobility:高齢者、障がいのある方や怪我をされた方)対応部門で5年連続世界第1位となりました。これからも、日本の空の玄関口として、世界中からお越しになるお客さまや航空関係者等から信頼され続け、選ばれる空港を目指していきます。



事業概要

グループ企業(連結対象19社)



施設管理運営業

旅客ターミナルの建設、管理・運営
不動産賃貸
駐車場の管理・運営
旅客案内

- ・東京国際空港ターミナル株式会社
- ・日本空港テクノ株式会社
- ・羽田エアポートセキュリティ株式会社
- ・株式会社櫻商会
- ・株式会社ビッグウイング
- ・羽田旅客サービス株式会社
- ・ジャパン・エアポート・グランドハンドリング株式会社
- ・株式会社羽田未来総合研究所



物品販売業

物販店舗の運営(業務受託を含む)
卸売

- ・株式会社羽田エアポートエンタープライズ
- ・国際協商株式会社
- ・株式会社日本空港ロジテム
- ・羽双(成都)商貿有限公司
- ・株式会社浜真
- ・株式会社Japan Duty Free Fa-So-La三越伊勢丹
- ・Air BIC株式会社



飲食業

飲食店舗の運営
機内食の製造・販売

- ・東京エアポートレストラン株式会社
- ・コスモ企業株式会社
- ・LANI KE AKUA PACIFIC, INC.
- ・会館開発株式会社

Terminal

1

第1ターミナルは1993年に供用開始しました。2018年に「THE HANEDA HOUSE」をオープン、2019年に到着ロビー、地下1Fをリニューアルするなど、お客さまに安らぎの場をご提供しています。



Terminal

2

第2ターミナルは2004年12月に供用開始しました。世界各国から一脚一脚異なる椅子・テーブルを取り寄せ配置したオープンテラス、星・夜景・滑走路の光の空間を演出した「星屑のステージ」など、お客さまに快適な空間を提供しています。



2020年3月には国際線供用施設を整備することで、国内線と国際線の乗り継ぎ機能を強化し、お客さまの利便性の向上に努めています。



Terminal

3

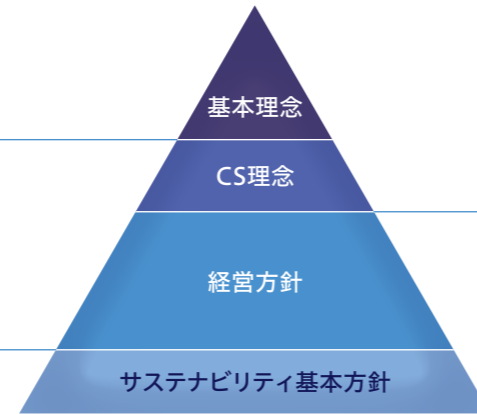
第3ターミナルは2010年、国際線発着枠の拡大により供用開始しました。お客さまを日本伝統の技と文化でお迎えするとともに、スムーズに搭乗手続きができるよう「FAST TRAVEL」を推進しています。



日本空港ビルグループの理念体系／長期ビジョン

基本理念 公共性と企業性の調和

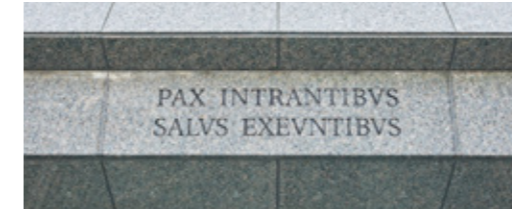
経営方針 旅客ターミナルにおける絶対安全の確立
 お客さま本位(利便性、快適性、機能性)の旅客ターミナル運営
 安定的かつ効率的な旅客ターミナル運営
 企業体質の強化およびグループ企業の総合力向上



CS理念 訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを

PAX INTRANTIBVS SALVS EXEVNTIBVS

このラテン語の銘文は、中世の風情を色濃く残す珠玉の城塞都市・ドイツ連邦共和国ローテンブルク市のシュピタル門に刻まれ、今でもここを訪れる人々を静かに迎えてくれます。
 わたしたち日本空港ビルグループは、この銘文をCS理念とし、羽田空港をご利用されるすべてのお客さまにご満足いただけるよう、サービス向上に取り組んでいます。



このCS理念を心に持ち続けるために、グループのCS表彰受賞者とともに、毎年ローテンブルク市を訪問しています。

長期ビジョン

To Be a World Best Airport

～世界で最も評価される空港、すべてのステークホルダーの満足の追求～

日本空港ビルグループは、いかなる事業環境においても変わることのない目指す姿、そして社員一人ひとりの指針となる長期ビジョンとして、「To Be a World Best Airport」を掲げています。

ステークホルダーの満足を追求し続け、その過程において羽田空港が世界で最も評価される空港、世界No.1空港になるという強い決意を示し、グループ一丸となって、すべての従業員が夢を持ち主体的に活躍していくための不変の指針です。

世界No.1というのは、旅客数やターミナルの大きさではありません。

さまざまな工夫と知恵を出し合い、隅々まで心配りを施すことで必要機能を十分に満たし、空間のダイナミックさよりも、お客さま目線でのサービスを心掛け、細かなところにも徹底的にこだわるような、羽田空港ならではの世界No.1です。

この長期ビジョンのもと、お客さまの心を豊かにし勇気や力が湧いてくる、何度でも訪れたい空港を目指してまいります。

私たちを取り巻くステークホルダー



サステナビリティ基本方針

日本空港ビルグループは、公共性の高い旅客ターミナルの建設、管理・運営を担う民間企業として、「公共性と企業性の調和」という基本理念を掲げています。「To Be a World Best Airport～世界で最も評価される空港、すべてのステークホルダーの満足の追求～」の実現に向けて、「サステナビリティ基本方針」のもと、経済社会の発展に貢献しながら持続可能な事業活動を推進していきます。



お客さま

私たちは、日本の空の玄関口として、お客さま本位(利便性・快適性・機能性)の旅客ターミナル運営に努め、デジタル技術も積極的に活用しながら継続的にサービスやオペレーションの改善に取り組み、最高のおもてなしを提供します。



パートナー

私たちは、航空会社、テナント、協力会社をはじめとするパートナー及び国と一体となって安全・安心な空港づくりやオープン・イノベーションを推進し、相互の発展を目指します。



従業員

私たちは、役職員の心身の健康と安全に配慮し、空港に関わるさまざまなフィールドで個々が持つ多様な能力を発揮しながらやりがいを持って働けるよう、人材育成や職場環境づくりに注力します。



地域社会

私たちは、周辺地域とのパートナーシップにより首都圏の発展に貢献するだけでなく、航空ネットワークの中心として全国の空港とも連携して国内の空の移動を活性化させ、日本全体の地域社会との共存共栄を図ります。



株主/投資家

私たちは、適時かつ透明性の高い情報開示を行うと共に、株主や投資家とのエンゲージメントにより長期的な目線での企業価値向上に努めます。



地球環境

私たちは、脱炭素社会や資源循環型社会への移行に向けて、地球温暖化対策や3Rの推進など事業活動に伴う環境負荷を低減させると共に、ステークホルダーと連携しながら地球環境と調和した持続可能な空港の実現を目指します。



共通

私たちは、絶対安全の確立のもと、事業活動の脅威となるリスクを適切に管理すると共に、非常事態の発生時においても人命の安全を確保しつつ、公共インフラである旅客ターミナルの運営を滞りなく継続できるよう、平時からの防災対策等と事業継続マネジメントを推進します。

私たちは、国内外の法令及び規範を遵守し、人権に配慮しながら誠実かつ公正に事業を遂行します。